徳地町報

発行所 徳地町役場
発行者 徳地町 河村 積
編集者 徳地町 今澄印刷所
印刷所 今澄印刷所

徳地町10年の歩みを顧みて

本年四月一日は、徳地町誕生後、満十年を迎えます。そこで町では、記念▽造林、町勢要覧の発行等を計画しておりますが、本紙も本号で一〇一号となります。その間、町民の皆さまから温かいご批判、ご便達をいただきましたことを深く感謝いたします。さて本号では、徳地町十年の歩みをふりかえり、めぼしい事項、行事、町政および町勢の進展状況などを取りあげてみました。町制十年の歩みと歴史を反省の糧（かて）とし、さらに、明△るく、豊かで平和な町づくりに励もうではありませんか。

災害復旧とあわせ諸施設の整備

農協合併など歴史的な実績

初代議長

栗屋且己氏

昭和30年5月17日徳地町史に特筆すべき初の徳地町議会が召集せられました。

議長選挙が行われ初代議長に栗屋且己氏、副議長に藤岡島一氏が当選しました。

全員の議会では、故・伊藤町長の下に助役、坂本譲介氏、長横政男氏、収入役、桑原嘉夫氏の選任に同意が与えられ、また町議会の常任委員会も設置せられて、徳地丸は輝かしい船出をしました。

徳地町報第一号を発行

町の広報紙「徳地町報」第1号が、全年6月15日発行せられ、町当局者と町民を直結するベルトの役割を果すことになりました。

平安橋（島地）の竣工

工費一、二九〇万円で

島地と串を結ぶ県道、島地ー鹿野線の島地川に架橋せられた平安橋が、30年7月2日みごと竣工しました。

連合青年団／連合婦人会／発足する

町制施行を契機とし、各地区団体を打つて一丸とした大きな結束をもつて、新生町の文化社会の建設に努力しあおうという力強くたくましい徳地町連合青年団、徳地町連合婦人会の二団体が、7月12日誕生しました。

巣山地区を分離し

鹿野町へ合併

かねてよりの懸案であった串地区の大字巣山地区を徳地町より分離し、都濃郡鹿野町へ合併させることが町議会で議決されました。

それには、巣山地区にある徳地町有林の全部を切りはなして町で保有し、残りの巣山地区を鹿野町に合併させるという条件つきの議決がなされて、30年11月1日正式に鹿野町に編入せられました。

台風22号おそう

30年9月30日、県下をおそった台風22号により、家屋の全半壊が9戸、非住家14棟、床下浸水20戸道路の損壊12カ所、水田の冠水50町歩などの被害をだしました。

徳地町の造林計画

毎年100町歩で17年かかる

本町は、二八八、三九半万キロという広大な面積の八三%以上が山ですが、その内、町有林地八、七三二町歩あります。

その内、官行造林地八八二町歩県行造林地五五二町歩、貸付地が五四四町歩、部分林造林地もおよそ一、九五一町歩あり、組合造林地八三町歩、採草地九一六町歩苗畑林三、八〇五町歩となっております。

苗畑林のうち、すでに造林したところ、天然保育林を除いて、今後造林しなければならない林野面積が一、七四五町歩（30年現在）あり、毎年一〇〇町歩造林しても17年かかります。

町は、このほど造林計画をたて実行に移していますが、本町百年の大計のため、苦しい財政の中において、この計画を遂行することは容易なことではありませんが、この恩沢は二〜三〇年先では、みごと実をむすび、町財政をうるおしてくれることでしょう。

町立、堀小学校の改築

工費一、一六〇万円

老朽危険校舎であった堀小学校の校舎改築工事が、31年7月13日竣工しました。

町は町是として、教育優先、教育の機会均等をモットーにしておりますが、堀小校舎は、木造二階建一棟、二九九坪余りと木造モルタル平家建の講堂九八坪など合計四三一坪の堂々たるもので、総工費一、一六〇万円を投じ建築せられたものです。

献穀斉田の抜穂式行わる

31年10月8日、大字船路字奥河内の原勇氏（本耕者）所有の献穀田に小沢知事以下、関係者が参集し抜穂式が行われました。

この新穀は、10月23日本耕者原勇氏夫妻が伊藤町長に附添われて宮中に参内、奉納せられました。

ジープ型、消防自動車を購入

31年10月10日、ニッサン級ジープ型、消防自動車一台を購入、町の消防力の機動化に一層の偉力を加えました。

柚野中学校の一部が焼失

31年11月12日、町立柚野中学校に火災が発生し、教室など一部を焼失しました。

なお、この復旧工事は工事費二一〇万円で32年4月復旧しました。

佐波川ダムの竣工

十九億三千万円（内三億円は発電所）の巨費と四年九カ月の歳月を費し、防災、かんがい、工業用水、発電の多目的ダムとして、佐波川ダムが完成しました。

堰高五五メートル、堰長一四五メートル、二、四六〇万トンの貯水量を有するこのダムの完成により、一大人造湖が出現し、32年3月20日、盛大な竣工式典が行われました。

高瀬橋の竣工、六二〇万円で

大字船路中央と下庄、上河内を結ぶ町道に地区の人々の待望久しかった高瀬橋が、工費六二〇万円で32年11月14日完成しました。

へき地の体育

柚野中で全国研究大会開く

32年7月4、5の両日、第6回全国へき地教育研究大会柚野分会県内、町内の学校関係一六〇名が集まって、研究されました。

この大会により、将来のへき地教育に基本的指針を提供し、全国へき地教育に一新気運を創出するであろうと期待せられていました。

町立図書館の発足

県立山口図書館佐波分館が、32年11月5日、正式に町に移管せられ「徳地町立図書館」として開館されました

重要文化財（旧国宝）

月輪寺薬師堂の修理完成

県下の建造物中、最古のものとして重要文化財に指定せられている月輪寺の薬師堂は、31年5月から工費九三一万円で修理が急がれて、32年10月7日無事に竣工されました。

徳地町国民健康保険

全町皆保険の実現

国民健康保険法に基づく国民健康保険は、出雲、八坂では合併前から実施せられていましたが、新町でこれを引継ぎその後、串、柚野が相次いで実施せられて、島地区のみが残っていました。

この島地区にもいよいよ33年4月から実施せられましたので待望の全町皆保険の実現をみるにいたりました。

柚木小学校の新築完成

町立柚木小学校は老朽危険校舎として改築が望まれていましたが総工費一、一〇万円を投じ、32年10月着工、33年7月みごと完成しました。

一見、奇形と思われるこの建物は、全地域が積雪寒冷地帯であるため、採光、採暖に一番苦心が払われた模様です。

八坂中の屋内体操場

特別教室など落成

八坂中の屋内体操場および特別教室の新築工事が33年8月着工、一、一八八万円の工事費で、藤岡組の請負施工で、33年3月完成しました。

県下一をほこる内容設備

堀中学校の工事落成

規模の雄大さ、内容施設の充実した点において、県下一の偉容をほこる町立、堀中学校々舎および屋内体操場の新築工事は、33年10月着工、総工費三、三〇〇余万円をかけて、34年7月みごと完成しました。

佐波署が防府署に併合

徳地警部派出所となる

34年12月1日、県下警察署の統廃合が実施せられ、八十年の歴史をほこる佐波警察署が防府警察署に併合せられて、新しく「徳地警部派出所」と看板をかえて発足しました。

豪雨の被害額

二億三千万円

35年7月8日、町内全般にわたり三〇〇ミリという集中豪雨があり、被害総額三億三千万円に達する大災害をもたらせました。

被害の主なものは

住家の流失二戸、全壊二戸、半壊六戸、非住家半壊四戸、床上浸水一八〇カ所、橋梁四三、本田の流失埋没三〇町歩、冠水三四〇町歩などでした。

伊藤町長逝去

地方自治に残した功績は大

かねて防府中央病院に入院加療中であった町長、伊藤三樹三氏は菜石遂にその効なく、36年1月29日、現職のまま逝去せられました。

同氏の地方自治に尽された功績は非常に大きく、33年には、叙授叙勲の栄を授与の光栄に輝いています。

町では、町葬の礼をもって盛いることを決定し、2月11日、町立堀中講堂において、仏式により町葬が厳かに執行せられました。

町民税を大幅減税

この減税は、35年4月1日にさかのぼり、三〇〇円の均等割だけ納めている人を除いて、税率の改定が行われ、今まで年三〇万円以下の低額所得者の税率が割合に高率であったのが、適正な税率に改正せられました。

新庁舎の建設落成

総工費三、九九三万円で

町は、合併諸条件の完遂と教育交通路線等の重要施設の整備拡充の大体一段落したので、36年5月16日いよいよ庁舎の建設に着工し総工事費三、九九三万円を費して37年2月新庁舎を完成しました。

新庁舎の完成と共に、町民課を新設し、町民皆さんへのサービス向上に努めることになりました。

延一万九千人が参加

NHK五期移動相談を開催

37年8月9、10日の両日、堀小中学校を会場として、第10回NHK夏期移動相談を開催しました。

参加延人員一九、二三八人という町政史上、驚異的記録を樹立し盛大で有意義な催しでありました

また成果のあがったのは、医療相談で三、三〇〇人が受診、診療の相談を受けています。

その他、各種の講演会、座談会、展示会などが、あわせ行われましたが、いずれも盛会でした。

防石鉄道の存続を要望

期成同盟会を結成

37年5月、防石鉄道株式会社の株主総会で、赤字経営の理由により鉄道営業の廃止が決議せられたので、防府市にも呼びかけ、防石鉄道存続運動を展開するため、期成同盟会が9月12日、結成されました。

期成同盟会では、その後、関係方面に猛運動を展開しましたがその効なく、線路撤去を町に無償提供することを決定し、その他二、三の条件付で鉄道運行廃止に町長の同意が与えられた結果、39年6月30日限り鉄道運行が廃止されました。

町では、線路撤去の終了後、産業道路の建設を急ぎ、39年々末までに町管内六、三〇〇メートルの改修を終っております。

八坂分団の地域に

消防自動車を購入配置

八坂分団および地元地区の要望で、ニッサン級ジープ型消防ポンプ自動車を一八〇万円で購入、37年末に配置し、同地域の消防力の機動化を一歩前進させました。

三谷小学校の改築

町立三谷小学校の校舎は、老朽危険校舎として37年末、工事費約六〇〇万円をかけて、りっぱに竣工しました。

未曽有の豪雪

死者二名

その他の被害大

38年1月6日降りだした雪は連日にわたり降り続き、町内全般に数十年来の新記録といわれる豪雪をみました。

この雪のため、死者二名、負傷者三名、住家、非住家の全壊四八戸、半壊五二戸その他の被害をだし、被害総額一億三百余万円にのぼる大損害を受けました。

中でも公有財産としては、串中堀体の倒潰が大きな被害でした。

徳地町商工会が誕生

近年、地方の中小企業者の実態は、交通機関の発達に伴なう消費購買力の都市流出、都市大企業の地方進出などの影響を受け、一大危機に直面しています。

こうした郡部中小企業者の危機に対し、郡部商工業者が結束を固めて、この危機を乗り切ろうということで、かねて準備が進められていた「徳地町商工会」が、38年1月12日誕生しました。

全会員二六八名の内、二一六名が出席、会長に吉野慶輔氏を選任し、ここに全町一本の徳地町商工会が発足し、その活動が期待せられております。

柚野地区に集中豪雨

被害四千万円

38年7月10日夕刻より柚野地区に約三〇〇ミリという集中豪雨があり、被害総額は約四千万円（県関係を除く）という損害をもたらしました。

団体記念事業の実施

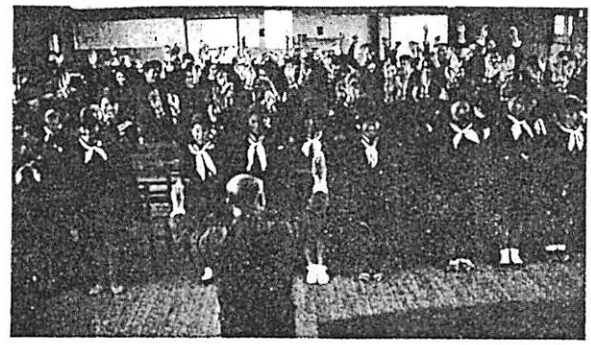
道標、造林、寄宿舎など

本年、山口県下で開催せられる第18回国民体育大会を記念して記念造林、佐波川ダム～狗留孫山～白石山を結ぶ一連のハイキングコースを開拓し、道標六〇本を建てたほか、八坂小に正式の寄宿舎を建設しております。

※裏面6段に続く

たばこは町内で買いましょう

佐波高校卒業生の就職者激励会



県立佐波高校、昭和三十九年度卒業生は、普通科一一九名、家政科三七名、合計一五六名でした。

そのうち、進学希望者三四名就職決定者一〇六名、家事従事者一六名となっております。

さる二月二十五日全校では、就職者を激励するつどいが開かれましたが、今年の求人、就職の状況は県外の求人五〇四人に対し、就職四〇人、県内の求人二〇一人に対し、就職六六人となっています。就職先では、京阪神方面の二九人が第一位で京浜方面五広島岡山方面四人中京地区二人の順となっています。

この激励会では、町、議会、雇用者側、就職の先輩などが、それぞれの立場から、いろいろと励ましのことばが贈られました。

就職者は一層決意を新にし、成功を胸に秘めて、晴ればれとした顔で帰っていきました。

町議会議員補欠選挙

斉藤馨氏当選

三月十日行われた、徳地町議会議員補欠選挙は、当日有権者の総数九、三五〇人、投票者四、〇三一人、投票率四三、一一％という町はじまって以来、最低の投票率で終りましたが、結果は次のとおりでした。

当選　三、〇一二票　斉藤馨

次点　八八八票　小林喜三蔵

国民年金に加入しよう

あなたの将来のために

国民年金制度は、社会保障の一環として、万一不幸にあった場合あるいは老後の備えとして、設けられた制度です。

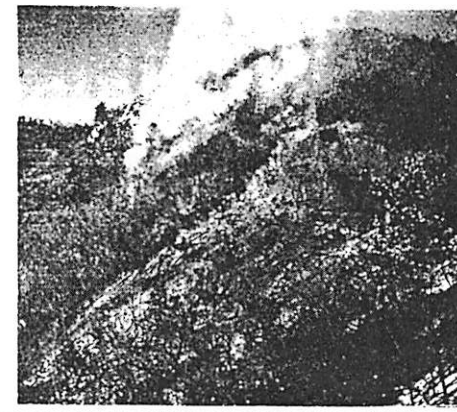
農林漁業、商業、無職の方で明治44年4月2日以後に生れた、年令満20才以上の人で、まだ国民年金に加入していない方は、加入する義務があります。

わが国は「国民皆年金」で、国民はかならず国民年金に加入してみんなが年金をもらう仕組みがとられています。

国民年金の加入手続きがすんでいない方は、一日も早く役場にお届けください。

事火山いしろ恐

山火事の追放にご協力ください



最近は、連日のように気象台から「異常乾燥注意報」がだされております。

また、毎日の報道機関は、大きく山火事、家屋火災のニュースを伝えています。

すべての火災のほとんどの原因が「人の不注意」による場合が非常に多いのです。外国人にいわせると、日本人ぐらい屋外で火を焚くことを好む人間はいないというそうです。

春先きに屋外で火を焚くことの是非は別としても、火を焚いた人たちの無責任な態度こそが、後始末を完全にしなかったり、甚しいのは、焚き散らしたまま放置するなど多くの山火事の原因になっているようです。

そこで、今後は町内から山火事を完全に締めだし、火災の無い明るい町づくりに励むため、お互いが最少限度、次の点は守っていただきますよう、ご協力ください。

(1) 気象台から異常乾燥注意報がだされているときは、屋外での焚火は厳重につつしむこと。

(2) もし、やむをえず焚火する場合や昼食のお茶わかしなどはかならず責任者を定めて実施し後始末を完全にし、消火を確認すること。

(3) たばこは、一定の場所以外では吸わないようにし、かつマッチの火は消火を確認して、処理すること。

(4) 造林地の火入れは、かならず事前に町長の許可を受けることまた、防火線など完全に切開いて、火入れ当日は、かならず役場に連絡すること。

基幹林道仏峠線の起工

基幹林道「仏峠線」は、完成の暁には、総延長一、二、〇〇〇メートルにおよぶ自動車道路で、柚野地区河内の銅橋を起点とし、島根県鹿足郡砥木村に通ずるものです。38年度施工分は、二、五六〇万円の工事費で行われ、引続いて三年計画で施工せられるものです。

この林道の開通により、山口県島根県にまたがる三、〇〇〇町歩の山林開発に役立ち、天然林を人工林に切りかえ、さらに四〇町歩の農地経営を集約化し、島根県の生産物と山口県の商工業地帯との直接交流が実現するなど、陰陽連絡の動脈として大きな期待が寄せられているものです。

藤木部落に定期バスの開通

大字藤木の五部落一五〇戸の方たちが、待望久しかった定期バスの運行がいよいよ決まりました。

38年11月10日、晴の開通式が行われ、地区の方々の長い間のご努力が報いられたのでした。

連続雨量二九六ミリ

五千万円の被害もたらす

39年6月25～27日までの三日間の連続雨量二九六ミリを記録しました。この洪水で町内全般に合計五千万円にのぼる被害をもたらしました。

当町では、大小にかかわらず毎年のようにこうした災害を受けており、災害予防、防除には抜本的な対策の必要が痛感されます。

五単位農協の合併成り

一郡一町一農協生まる

これまでの農協は、米、麦の増産を最も大きな事業として、その向上発展をはかつてきたのでありますが、社会の進展につれ都市と農村の格差が大きくなっています。

現在の社会情勢のもとに農民が真に生きていくためには、自分の農業経営の実態をよく研究し、改善していくことが必要です。

これを一口に申しますと、農業の構造改善を行うということですが、そのためには、私たちお互いの農民同志で組織した、しかも強固な農民団体である「農協」をより一層強化し、大きな経済力と指導体制の整備された農協にすることが大切です。

これが、ひいては町の発展に寄与するものだとの結論に達したので、昨年7月1日いよいよ単位五農協の合併が成立「徳地町農業協同組合」が、一郡、一町、一農協というスッキリした体制に生れかわって誕生しました。

これからの活動と発展が大きな関心と期待せられるわけです。

成人を迎えた佐波高校

町内唯一の最高学府、県立佐波高校は、39年で開校二十周年を迎えました。

卒業生もすでに二千名に達しており、校内環境も整備せられています。学校では11月2日、二十周年記念式典、記念行事など数々の催しが盛大に行われました。

さらに十年先を目標に進もう

以上で大体十年間の町の歴史の歩みのなかで、めぼしいことをふり返ってみました。

いわば、町の幼年期の歴史というわけですが、この先の十年はまさに最成長期に相当するわけでこれからの町建設こそ、まさに町百年の大事業ともいえましょう。

ごあいさつ

町長　長嶺政男

そよ風、やわらかく頬をなで大地は春の息吹きに、よみがえる好時節を迎え、各位、いよいよご清栄の事とお喜び申しあげます。

さて、私事、今回徳地町長選挙に立候補いたしましたところ、図らずも無投票をもつて再選せられるにいたりました。

このことは、私が町民皆さま方に深く感謝申しあげますとともに私の責任が一層、重且つ大であることを肝に銘じて痛感している次第であります。

そこで私は、今期四年間の町政の基本として、まず第一に取上げたいことは、当町はいわゆる周南工業地域の背後地に位置しているという現実に立脚して、あくまで農林の町として発展していくよう全力を集中したいと思います。

そのためには(1)交通施設の整備拡充、(2)教育全般の振興問題、(3)山林開発による資源の造成に努力する。(4)農山村労働力の換金方策…など順次、解決していくよう努力したいと思います。

以上簡単に申しあげましたがこうした基本的姿勢をもつて、あくまでも町民皆さま方のお心を心として、十分町政に反映していく考えでおりますので、何卒旧に倍するご指導、ご支援を賜わりますようお願いいたします。

終りに町民皆さま方のご多幸とご発展を祈念いたしまして、ごあいさつといたします。

おしらせ

銃砲のいつせい検査が行われます

県公安委員会では、次の日時および場所で、銃砲などのいつせい検査を行ないます。

許可を受けている本人が、銃砲や刀剣と許可証を持参して下さい

日時、場所

3月22日前10時～后4時まで

串地区は串駐在所で

島地々区は島地駐在所へおいでください。

3月23日、前10時～后4時まで

出雲地区は徳地警部派出所

八坂地区は八坂駐在所

柚野地区は柚野駐在所

検査する銃砲などの種別

猟銃、空気銃、鎗用刀、祭礼などに使う刀などです。

美術刀剣は行ないません。

計量器の定期検査が実施されます

次の日程で計量器の定期検査が実施されますので、該当者はかならず検査をお受けください。

◎4月12日前10時～正午まで

串支所で行なわれます。

◎4月12日、后1時～3時までを

島地支所で実施

◎4月13日、前10時～正午までを

柚野支所

◎4月13日、后1時～3時までを

八坂支所

◎4月14日、前10時～后3時まで

中央公民館で出雲地区全部。

国保税の減税

対象は一、二八二世帯

県民税所得割の所得が、九万円（町民税の基礎控除額）に、その世帯の被保険者（世帯主を除く）一人について、一万五千円を加算した金額以下となる世帯が対象となりました。

この対象となる世帯は、およそ一、二八二世帯で、全体の四九％に当る世帯が減税の対象になっております。

辺地整備事業で沖の原橋の竣工

佐波川左岸の奥地にある志手原吉森部落より沖の原を経て、県道防府～津和野線を結ぶ主要町道湊尾、沖の原線に架けられた「沖の原橋」が、4月26日見事竣工しました。

全橋は、全長九四メートルの永久橋で、総工費九〇五万円で、辺地整備事業として架橋せられたものです。

※前頁下段より続く

道路台帳の改編、整備なる

町では、38年4月、道路台帳の整備改編を行ないました。

これによると主要町道一九路線五四キロ、一般町道八六路線でその延長一二五、六キロなどとなっています。

国体旗、町内を縦走

38年10月18、19の二日にわたり町内を縦走しました。

当日は、町内各種団体、学校など盛大な歓送迎を受け、沿道は婦人会の花いつぱいで飾られるなど各方面のご協力を得て、無事に任務を終ることができました。